

民間支援まちづくりファンド 活動紹介

事業名

ふるさとの川と森を守れ！
灰塚川「千年の森」づくり

団体概要

- 申請者名 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
- 代表者 小松 幸子
- 活動場所 灰塚川（沼津市大平）

●活動PR <http://www.gwmishima.jp/>



1. 活動の目的

1. 沼津市と三島市の境界に位置する「灰塚川」は三日月形の河道が残る全国的にも珍しい止水域であり、近年河畔を覆う放棄された竹林の伐採や、多様な樹種の植林、下草刈りや清掃活動を継続して行うことで、原生林の育成と復活を目指す。
2. 灰塚川沿いに位置する沼津市大平地区の住民をはじめ、沼津市民との地域協働による推進体制を構築し、自然観察会などの定期的な勉強会の開催により、環境教育の推進を行う。

2. 活動を始めた経緯

【法人スタッフ美和さんより】当法人の専務理事が、元々静岡県職員の出身であり、当時東部農林事務所で、灰塚川の排水機場の建設事業に携わっていました。その後NPO活動を始めるにあたって、灰塚川に素晴らしい河畔林や森が残っていることに魅力を感じ、法人活動の一環として、整備・保全していきたいという思いから始めました。

灰塚川のような止水域は、通常埋め立てられてしまうことがほとんどで、残っていないことが普通です。三日月湖として残っている現在の様子は、伊豆地域全体でも非常に貴重で、そのような場所では生き残っていきえない生物にとっては唯一の場所でもあり、河畔林の再生・保全には取り組む価値があると考えています。



4. この活動を通じてつながることができた方々

- ◎大平地区連合自治会
活動を始めた当初は、三島市側を主に活動拠点としていましたが、ファンド応募にあたって、沼津市側の自治会や住民のみなさんと繋がりを持つことができ、灰塚川の自然環境の復元、保全活動について、理解いただき、活動について賛同をいただいています。
- ◎大平中学校
今年度はじめての取り組みとして、環境再生の意味、河畔林の重要性、ボランティア活動の役割などについて学ぶ機会を設け、体験学習を実施しました。
- ◎芝浦工業大学/都留文科大学
理事のつながりで活動を知っていただくことで、自然保護の取り組みを大学の実習先として受け入れています。
- ◎各種助成金プログラム（主なもの）
 - トヨタ環境活動助成プログラム（トヨタ自動車）
トヨタ自動車は1999年に「グローバル500賞」を受賞を記念し、開始した助成金事業
 - 地球環境基金（独立行政法人環境再生保全機構）
民間団体による環境保全活動の支援を行い、環境保全に向けた国民的運動の展開を図ることを、1993年5月に創設された基金

3. 活動内容

1. ～助成時の活動について～【平成28/29/30年度：ステップアップ型】



- ・植樹地の造成工事及び「千年の森」づくりに向けた植樹・保育活動
- ・子どもたちや地域住民に向けた、セミナー、勉強会、野外観察会の実施

2. ～助成から現在までの活動について～（令和3年12月現在）

- ◎現在は民間の助成金を活用しながら、継続して放棄竹林の伐採、チップ化、河畔林の再生・保全活動を実施しています。
- ◎活動に興味をもった複数の大学から、実習受け入れ先としてお越しいただき、保全活動に参加をいただいています。
- ◎地元の大平中学校の体験学習として、苗木の植え付け作業を行っています。
- ◎ナショナルトラスト運動として、周辺の民地を募金活動などで資金を集め、買い取りを進めており、当法人にて保護・管理を進めています。



5. この活動を通じた効果や成果について

- ◎当時植樹した木々が成長してきて森として育ってきていることです。
【参考：令和4年1月に第6回三島市景観賞「優秀賞」を受賞「富士山の秀丽・壮大な景観美・松毛川の千年の森」】
- ◎沼津市側での活動を始めたことで、大平地区みなさんとの地元のつながりができたのが、一番大きい成果となりました。これまで実施した観察会や植樹・保育活動には沼津市民を中心に多くの方にご参加いただきました。また、環境悪化の現状と、河畔林の保全活動の必要性についてを実感してもらうことができました。
- ◎竹林を伐採して、竹がとりはらわれて森ができていく過程を参加者自身が目にする事で 劇的に景観が変わっていることを実感し、達成感を感じていただいています。

6. 今後の活動について

- ◎今年度初めてクラウドファンディングに挑戦して 300万円くらい調達することができたので、今後はトラスト運動で買収した土地などに、野鳥のバードウォッチングができるような観察小屋を建てることを検討しています。
- ◎現在耕作放棄地にレンゲをまいたり、桜の木を植えるなど、景観改良も行っており、ここを訪れる人が見た目的に楽しめるような取り組みも行っていきますので、引き続き対象範囲を拡大していきたいです。